

OpenAM OpenLDAP 用 リポジトリプラグイン (OpenLDAPRepo)

インストールガイド



オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2012 年 12 月 25 日

リビジョン: 1.0

目次

1. はじめに	1
1.1 インストール条件.....	1
1.2 前提事項.....	1
1.3 パッケージ構成.....	1
2. インストール	2
2.1 OSSTech パッケージ(RPM)のインストール.....	2
2.1.1 RPM 一覧.....	2
2.1.2 パッケージのインストール.....	2
2.1.3 Tomcat の再起動.....	2
3. 設定	3
3.1 プラグインの設定.....	3
4. 改版履歴	4

1. はじめに

本ドキュメントは、OpenAM のユーザーデータストアに OpenLDAP を採用している環境に対して Persistent Search(持続検索)を有効にするためのプラグイン(OpenLDAP 用リポジトリプラグイン)を導入するための手順書です。

1.1 インストール条件

- 弊社版 OpenAM 9.5.5 をインストール済みであること

その他、ハードウェア・ソフトウェア要件は OpenAM に準ずるものとします。

1.2 前提事項

本ドキュメントは、特に指示がない限り、以下のような条件を前提に記述しています。これと異なる場合は、適宜内容を読み替えるか、必要な作業を別途実施してください。

- 弊社版 Tomcat に OpenAM がデプロイされ、デプロイ名が "openam" であること

デプロイ先 : /opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam

- OpenAM の初期設定が終了しており、OpenLDAP をユーザーデータストアとして設定済みであること
- ユーザーデータストアとして利用する OpenLDAP においてレプリケーション機能(sync repl)が有効であること

1.3 パッケージ構成

下記パッケージを OpenAM が導入されているサーバーにインストールします。

- OpenAM OpenLDAP 用リポジトリプラグインパッケージ
 - osstech-openam-openldaprepo

2. インストール

2.1 OSSTech パッケージ(RPM)のインストール

OSSTech の RPM パッケージを利用してインストールする手順を説明します。

2.1.1 RPM 一覧

以下の RPM パッケージをインストールします(Xの部分にはバージョン番号が入ります)。

```
osstech-openam-openldaprepo-X.X-X.el6.noarch.rpm
```

2.1.2 パッケージのインストール

rpm コマンドを利用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh osstech-openam-openldaprepo-X.X-X.el6.noarch.rpm
```

インストールを行うと jar ファイルが/opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam/WEB-INF/lib/に配置されます。なお、opensso-sharedlib.jar については入れ替えを行うため、既存のファイルは opensso-sharedlib.jar.org としてバックアップされます。

弊社版 Tomcat を利用していない場合やデプロイ名が "openam" 以外の場合、正しい場所に配置します。(下記はデプロイ名が "openam" 以外の場合のコマンド例。)

```
# cp -pi /opt/osstech/shared/tomcat6/webapps/[デプロイ名]/WEB-INF/lib/opensso-sharedlib.jar  
/opt/osstech/shared/tomcat6/webapps/[デプロイ名]/WEB-INF/lib/opensso-sharedlib.jar.org  
# cp -pi /opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam/WEB-INF/lib/opensso-sharedlib.jar  
/opt/osstech/shared/tomcat6/webapps/[デプロイ名]/WEB-INF/lib/opensso-sharedlib.jar
```

2.1.3 Tomcat の再起動

インストールしたライブラリをロードさせるために Tomcat を再起動します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 restart
```

3. 設定

3.1 プラグインの設定

OpenAM に OpenLDAP 用のリポジトリプラグインを利用するための設定を行います。作業は OpenAM 管理コンソールより行います。

1. OpenAM 管理コンソールの「アクセス制御」タブ → 対象のレルム → 「データストア」タブ → 対象の OpenLDAP ユーザーデータストア を開きます。
2. 「LDAPv3 リポジトリプラグインのクラス名」をデフォルトのクラスから次の値に変更します
 - `jp.co.osstech.oam.idm.plugins.ldapv3.OpenLDAPRepo`
3. 以下の持続検索用のパラメータを設定します。

項目	詳細
持続検索ベース DN	持続検索に利用するベース DN を設定します。
持続検索フィルタ	持続検索に利用するフィルタを設定します。
持続検索範囲	持続検索の範囲を設定します。
再起動前の持続検索の最大アイドル時間	持続検索を再開するまでの最大アイドル時間を設定します。
エラーコードの後の再試行の最大数	持続検索のためのコネクションが切断された際など、エラーが発生した場合の再試行回数を設定します。
次の再試行までの遅延時間	再試行のインターバル時間を設定します。

4. 画面右上の「保存」をクリックします。

以上で完了です。

4. 改版履歴

- 2012 年 12 月 25 日 リビジョン 1.0
 - 新規作成